

機能	主な意見
評価・審査	<p>① 事業の検証・評価等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の専門家による組織を構築、事業の検証・評価、補助金事業採択審査等を着実に実施しており、大阪における文化行政の質の担保と向上に寄与している。 H30年度からは、H29年度まで対象外としていた指定管理施設に関わる事業等も含めた全事業を対象を拡大し、文化振興計画に紐づけてヒアリングと評価コメントを行っている。 今後も継続して、府市文化課と連携しながら、より効果的に事業評価を行えるよう評価方式等の見直しなど行っていく必要がある。 <p>② 補助金事業の採択審査等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 採択事業に関して、適切に実地調査（視察）、ヒアリングを行っており、現場に寄り添ったきめ細やかな担い手支援を実施している。 担い手に寄り添いながら、担い手を育てていくという気持ちが込められており、大阪の文化事業の質向上に貢献している。 採択してそれで終了ということではなく、細やかに現場を調査していることがよくわかる。 少ないスタッフ数でありながら、多数の実地調査を実施している点は高く評価できる。 令和2年度の実地調査回数が減っているのはコロナの影響だと思われるが、その中でも地道に調査を続けていることがわかる。 採択事業についての評価を実地調査を含む手法で行い、鑑賞者、参加者の立場からの視点も取り入れられたものとなっていると考えられる。 H30年度より採択事業視察資料の見直しや採択・不採択を問わず相談対応を本格的に実施しており、アーティストや文化団体の現況に即した審査を行うことができている。
調査	<p>① 事業調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組みの方向性に基づき、大阪の文化に関する基礎データ等について調査活動を実施している。 新型コロナウイルスによる感染症の影響拡大に応じて、他の団体とも連携のうえで実情を把握する調査を迅速に行うなど、社会状況に応じた調査を実施している。 新型コロナウイルス感染症の影響等に関してタイムリーな調査を実施できたことは、専門機関としてのアーツカウンシルだからこそ実現できたものであり高く評価できる。 (R2年度の50人未満のアート拠点ピックアップヒアリング調査について)小規模拠点の調査に目を向けたことは、従来の文化行政、文化振興財団、文化協会には無かった視点であり、大阪アーツカウンシルの新しい姿勢として特筆すべきである。 <p>② シンポジウムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を基にシンポジウムを開催する等、新たな課題を指摘するとともに、解決に向けた問題提起を行なっている。 単に調査を実施するだけでなく、シンポジウムを開催し、広く情報共有と啓発を行なってきた点は大きな功績であると言える。 <p>③ 調査結果の公表等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大による影響について、非常に危機感を持って迅速に調査を行い、課題を把握してきたこと、また、それをいかした方策を検討し、現状を公表してきたことが非常に重要である。 全ての調査結果を公表することにより、府内のアーティストや文化団体、各市町村の文化所轄課、公民の文化施設に、大阪の文化に関する基礎資料を提供することができている。 コロナ禍においては、民間機関等の文化芸術関係者とのネットワークを構築し、その基盤を活用することで調査を実施し、文化芸術支援のための基礎資料を大阪府市や府内の文化芸術関係者に提供することができている。 <p>④ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> (R2年度の50人未満のアート拠点ピックアップヒアリング調査について)調査対象となる小規模拠点が全て大阪市内に限定されていることから、大阪アーツカウンシルの視野が大阪市中心に偏っているのではないかと、大阪市以外の基礎自治体への支援体制の確立が急務である。 大阪府内の公立文化施設等にかかる調査や芸術文化交流シンポジウム等は、これまでも行われていたのかもしれないが、あまり知られていなかったのではないかと。
企画	<p>① 提案・提言について</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会課題への対応に係る施策の企画提案等を実施している。 府市の文化事業に対する施策提案を行っており、特にコロナ禍における芸術文化への支援策に関する提案を実施している点は評価できる。 コロナ禍における芸術文化支援に関する提言をタイムリーに実施してきた点は全国のアーツカウンシルの中でも卓越した成果である。 大阪府市に対する実質的で有意義な提案がされ、活動するアーティストたちの支援に繋げる意欲が感じられる。 大阪の文化振興において重点的に取り組む方向を示すことができている。 さらに調査結果を提案等に活かすことで、企画機能を強化できる余地がある。 <p>① 担い手へのサポート等の現場支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪で活動する文化芸術の担い手へのサポート等の現場支援を実施している。 地域単位の交流活動にも焦点を当て、大阪府下における地域の文化関係者との交流促進や情報提供を始めているが、今後、拡充するべきであると考えられる。 <p>② 他機関との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> enocoをはじめとする府内の公立文化施設や、大学、民間文化財団等と連携した企画を通して、アーティストや文化団体及び府民・市民に文化芸術の学びの機会を提供することができている。 全国アーツカウンシルネットワーク会議に参加し、各自治体の地域アーツカウンシル機能に関する知識を蓄積するとともに、大阪アーツカウンシルの全国周知に努めている。今後も継続して連携していくべきであると考えられる。 大阪はすぐれた芸術家を生み出しても、府外へ流出してしまうことがある。人が居つくまちにするために、まちづくり関連団体等との協力があっても良いのではないかと、今後、さらなる他機関との連携に期待している。 <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画の中にはアーツカウンシルの存在そのものをより広く知ってもらうPRの意味もある。この点では、一部の関係者にしか知られない企画が多いように感じる。 これまで屋内で実施することが多かったイベント等について、オンラインだけではなく、屋外でも実施できるような企画があると良いのではないかと。